



認 定 書

国 住 指 第 2262 号
平成 21 年 10 月 23 日



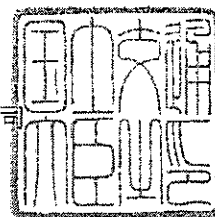
ニチハ株式会社

代表取締役社長 井上 洋一郎 様

国土交通大臣

前原

誠司



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

QF030RS-0156

2. 認定をした構造方法等の名称

通気見切り金物・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

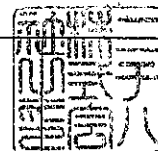
（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。



素晴らしい人間環境づくり

ニチハ株式会社

管理番号 NICHHA・F－



1. 構造名：

通気見切り金物・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
被覆材	<p>材料：両面化粧有機質系繊維混入セメント板</p> <p>組成：</p> <p>セメント質原料 70(±7)質量%</p> <p>無機質混和材 22(±7)質量%</p> <p>有機質繊維 6(±2)質量%</p> <p>有機質混和材 2(±1)質量%</p> <p>但し、</p> <p>セメント質原料：セメント、けい酸質原料等</p> <p>無機質混和材：パーライト、マイカ等</p> <p>有機質繊維：パルプ、合成繊維等</p> <p>有機質混和材：パルプ粉等</p> <p>塗料(表裏面)</p> <p>材料：1)～6)の一</p> <p>1)アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>2)アクリル樹脂系塗料</p> <p>3)アクリルシリコーン樹脂系塗料</p> <p>4)ふっ素樹脂系塗料</p> <p>5)エポキシ樹脂系塗料</p> <p>6)ポリシロキサン樹脂系塗料</p> <p>塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>密度：0.9(－0.1)g/cm³以上</p> <p>形状：</p> <p>1)表面形状</p> <p>厚さ：12～25(±1)mm</p> <p>幅：455mm以上</p> <p>2)断面形状(図6参照)</p> <p>最低板厚(中実部)：10mm以上</p> <p>容積欠損率(模様深さ)：8.8%以下</p> <p>(但し、板厚12mmを超える場合は裏面から12mmの位置での欠損率とする)</p> <p>3)表面の形状：①～④の一</p> <p>①平滑</p> <p>②平滑・溝加工</p> <p>③エンボス</p> <p>④エンボス・溝加工</p>

つづく

つづき

野縁	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下
吊り木	材料：①又は② ①なし ②日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 断面寸法：30×30mm以上 取付間隔：500mm以下(軒出方向)
通気見切材 (図7参照)	通気見切り金 材料：①～⑤のー ①溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ③溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ④ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744、金属板のアルミニウム及びアルミニウム合金板は除く) ⑤溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070) 厚さ：0.4mm以上 塗料(あり又はなし) 材料：1)～7)のー 1)アクリルウレタン樹脂系 2)アクリル樹脂系 3)アクリルシリコーン樹脂系 4)フッ素樹脂系 5)エポキシ樹脂系 6)ポリシロキサン樹脂系 7)ポリエステル樹脂系 塗布量：300g/m ² 以下(有機固形分量) 換気孔の大きさ(1孔あたり)：4.5(±2.0)mm×16.5(±2.0)mm以下(面積0.75cm ² 以下) 換気孔間隔：2(±0.5)mm以上 換気孔面積：114.35cm ² /m以下
熱発泡材	材料：①又は② ①なし ②グラファイト系 組成： 膨張黒鉛 30(±10)質量% 粉末充てん材 20(±10)質量% ゴムバインダー 15(±10)質量% 耐熱性繊維類 20(±10)質量% 難燃剤・ゴム薬品等 15(±10)質量% 寸法：2.3(±0.3)×11.5mm以上
フラップ	材料：①又は② ①塩化ビニル樹脂 厚さ：1.2mm以下 ②なし

つづく

つづき

通気見切材	接合部材	<p>材料：①又は②</p> <p>①あり（通気見切り金物と同じ材料、塗料を用いる。）</p> <p>材料：1)～5)の一</p> <p>1) 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)</p> <p>2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317)</p> <p>3) 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321)</p> <p>4) ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム及びアルミニウム合金板は除く)</p> <p>5) 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070)</p> <p>厚さ：0.4mm以上</p> <p>塗料(あり又はなし)</p> <p>材料：1)～7)の一</p> <p>1) アクリルウレタン樹脂系</p> <p>2) アクリル樹脂系</p> <p>3) アクリルシリコン樹脂系</p> <p>4) フッ素樹脂系</p> <p>5) エポキシ樹脂系</p> <p>6) ポリシロキサン樹脂系</p> <p>7) ポリエステル樹脂系</p> <p>②なし</p>
	位置	<p>仕様：①又は②</p> <p>① 壁側</p> <p>② 鼻隠し側</p>

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
目地部材 (図8参照)	<p>材料：①、②又は③</p> <p>①突付け目地</p> <p>②金属ジョイナー</p> <p>ジョイナーの材質：1)～7)の一</p> <p>1)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>2)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>3)溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>4)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く)</p> <p>5)熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304)</p> <p>6)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)</p> <p>7)溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070)</p> <p>厚さ：0.25mm以上</p> <p>形状：H形又はT形</p> <p>塗料(あり又はなし)：1)～7)の一</p> <p>1)アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>2)アクリル樹脂系塗料</p> <p>3)アクリルシリコン樹脂系塗料</p> <p>4)ふっ素樹脂系塗料</p> <p>5)エポキシ樹脂系塗料</p> <p>6)ポリシロキサン樹脂系塗料</p> <p>7)ポリエステル樹脂系</p> <p>塗布量：300g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>③本実・合いじゃくり目地</p> <p>端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図8参照)</p> <p>重なり：6mm以上、隙間：3mm以下</p> <p>・目地部防水材</p> <p>材料：1)又は2)</p> <p>1)なし</p> <p>2)合成ゴム</p> <p>使用量：5g/m以下</p>
受材	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×40mm以上</p> <p>取付間隔：455mm以下</p>
留付材	<p>通気見切材固定用：</p> <p>材料：タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ3.6×28(±1)mm以上</p> <p>留付間隔：455mm以下</p>

つづく

つづき

留付材	<p>被覆材固定用：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリークぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.3×長さ38mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.0×25mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
	<p>野縁固定用(たるきへの固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N75以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.75×長さ75mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>
	<p>野縁固定用(鼻隠し下地への固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N50以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.75×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>

つづく

つづき

留付材	<p>吊り木固定用(吊り木を用いる場合)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリークぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径φ2.3×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ2.0×45mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
-----	---

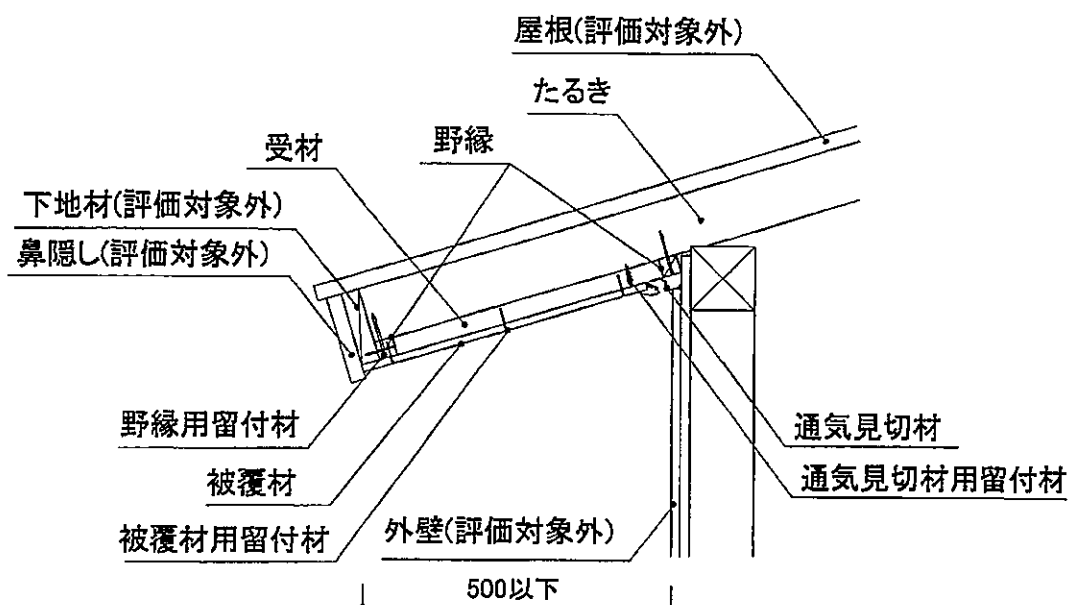
5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図8に示す。

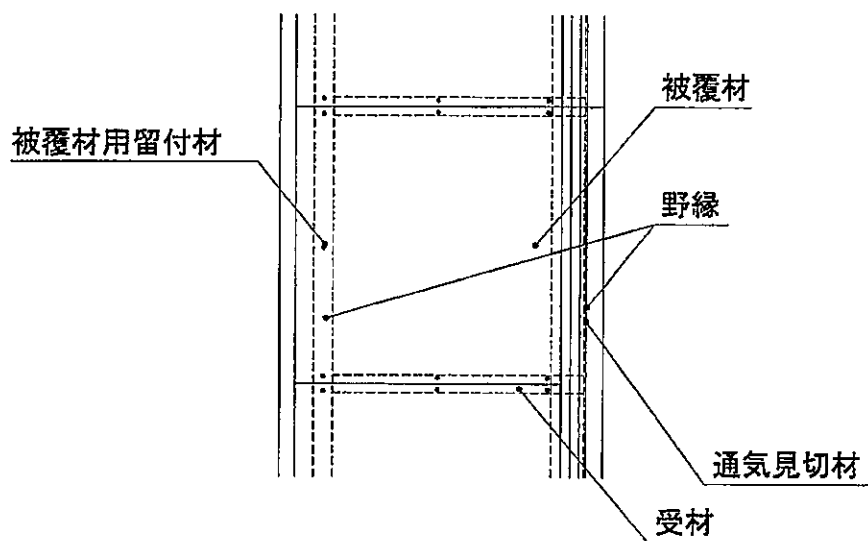
被覆材勾配

軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図



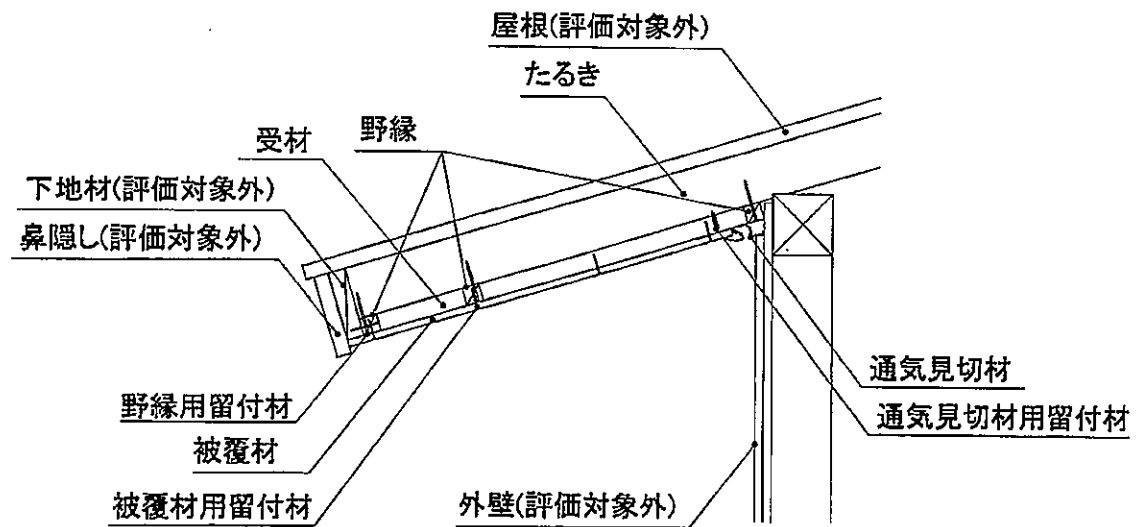
被覆材平面図

図1 構造説明図

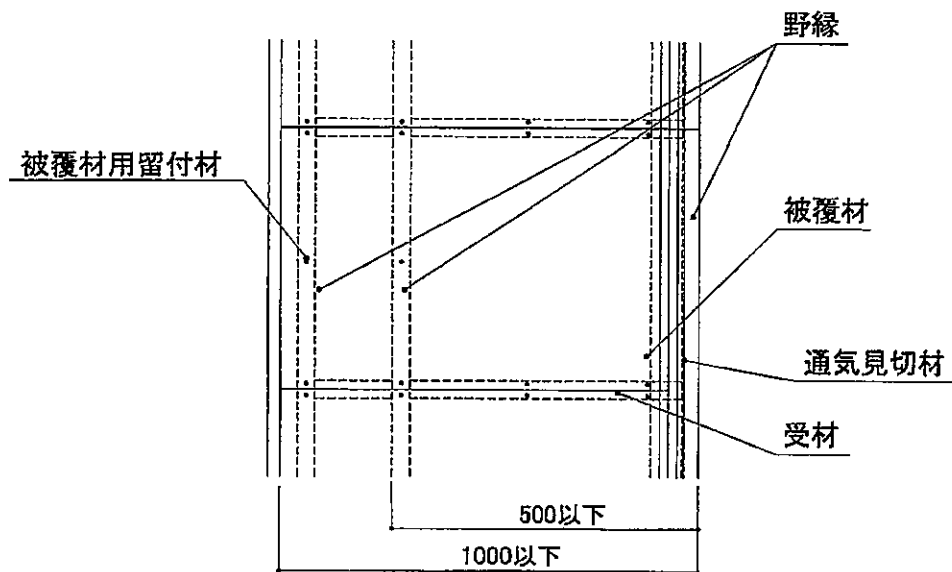
被覆材勾配

軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図



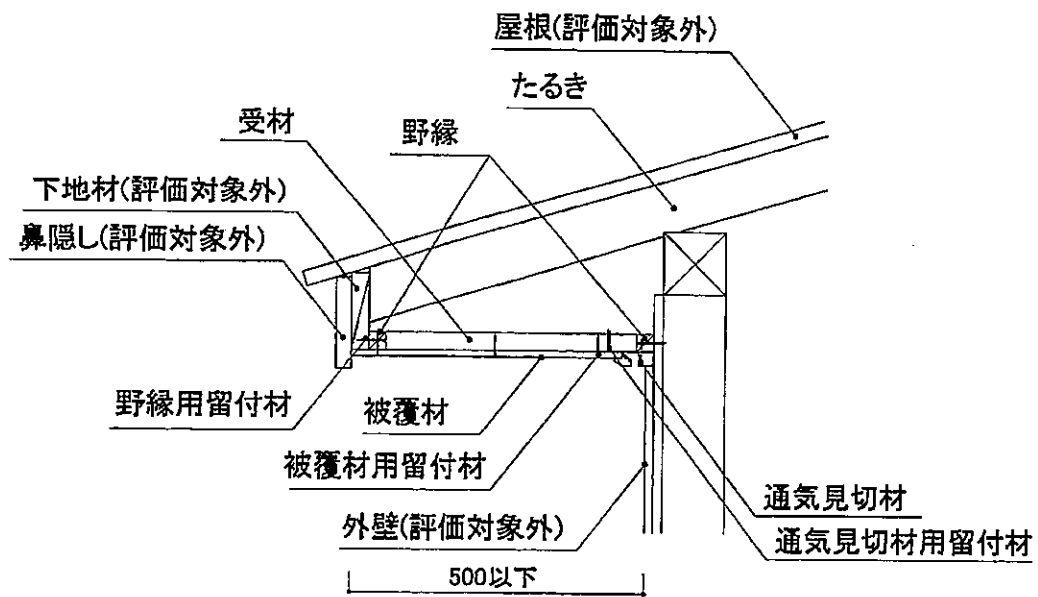
被覆材平面図

図2 構造説明図

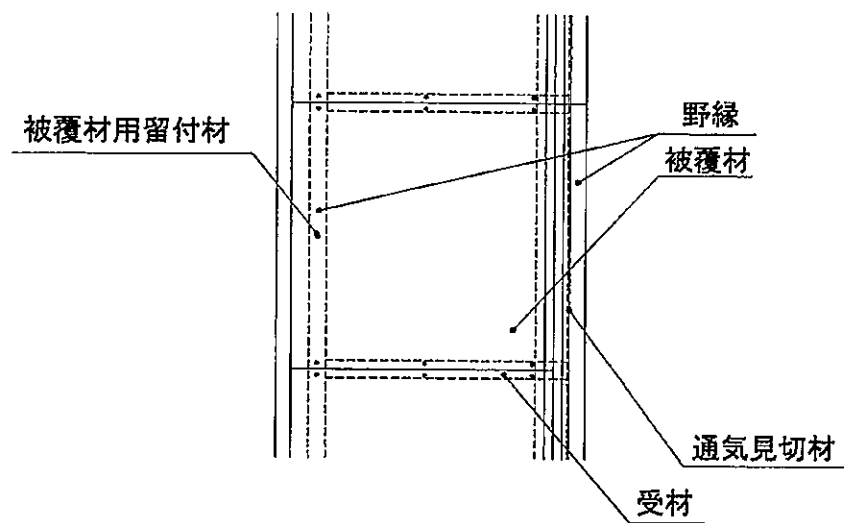
被覆材水平

軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図

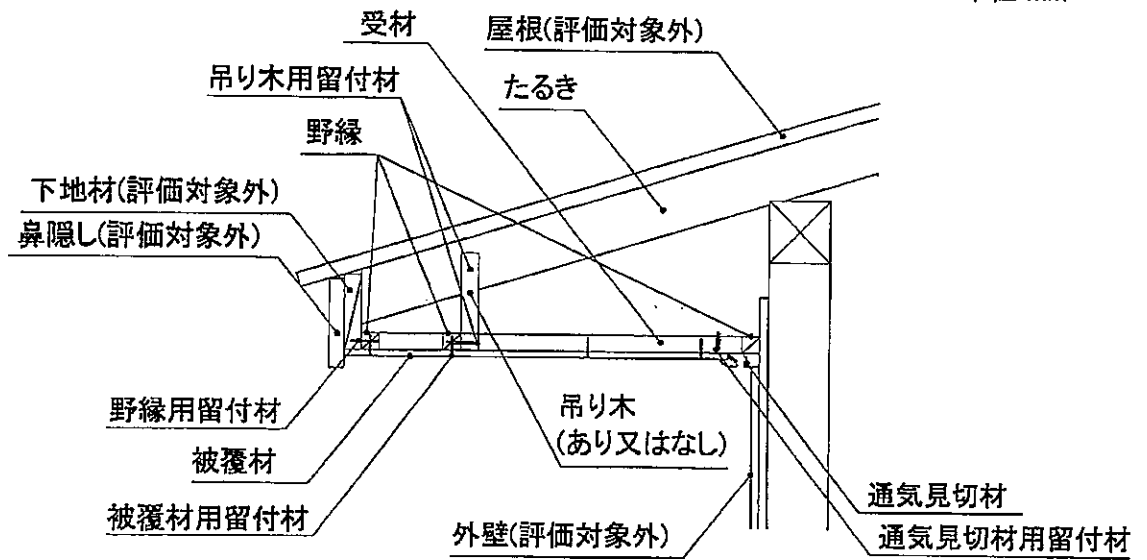


被覆材平面図

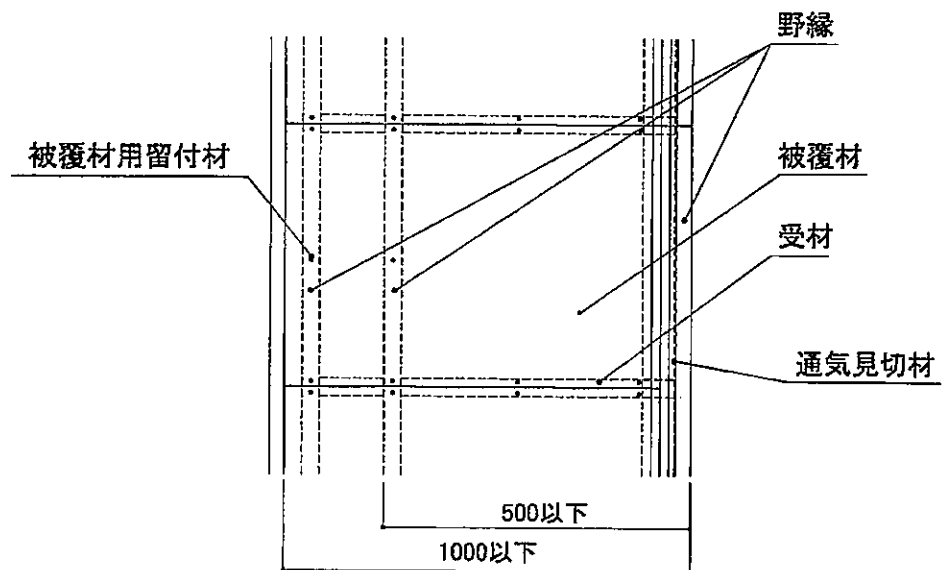
図3 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

単位 mm

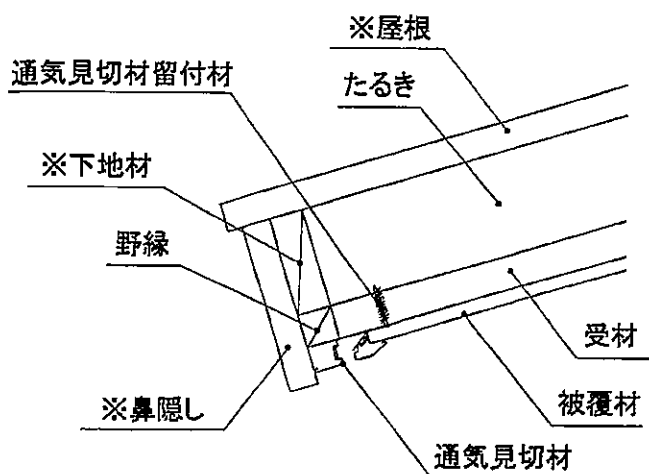


軒部詳細図

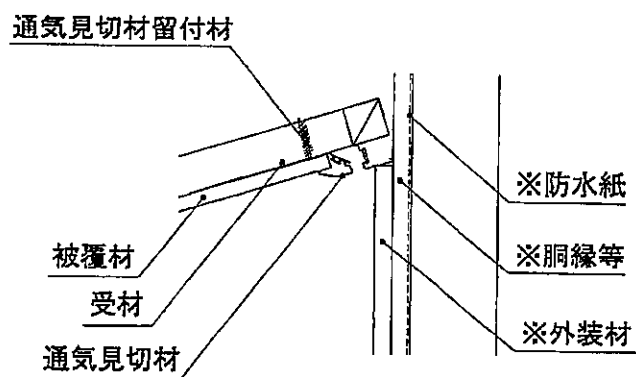


被覆材平面図

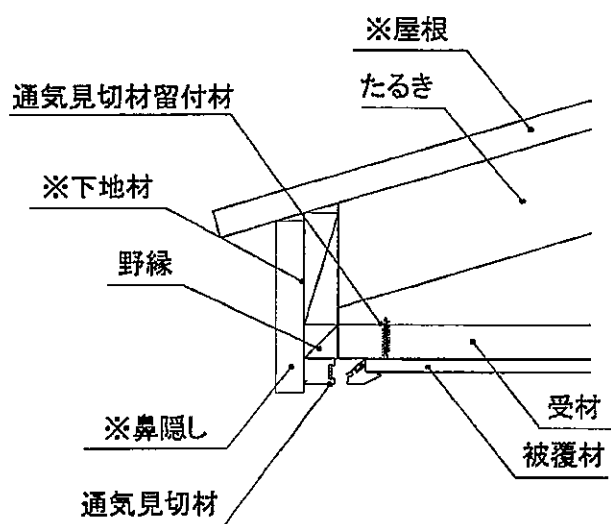
図4 構造説明図



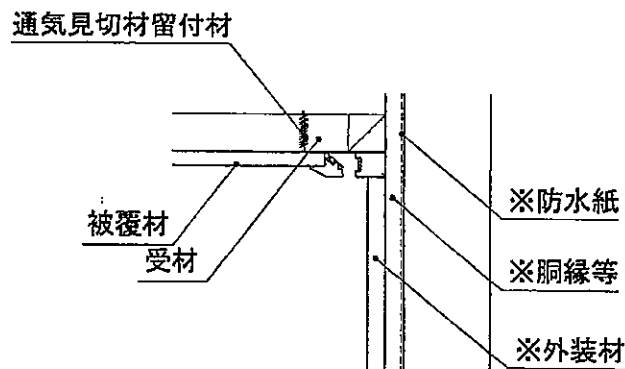
被覆材勾配、通気見切材勝ち、
通気見切材軒先施工の場合



被覆材勾配、通気見切材勝ち、
通気見切材軒壁側施工の場合



被覆材水平、通気見切材勝ち、
通気見切材軒先施工の場合



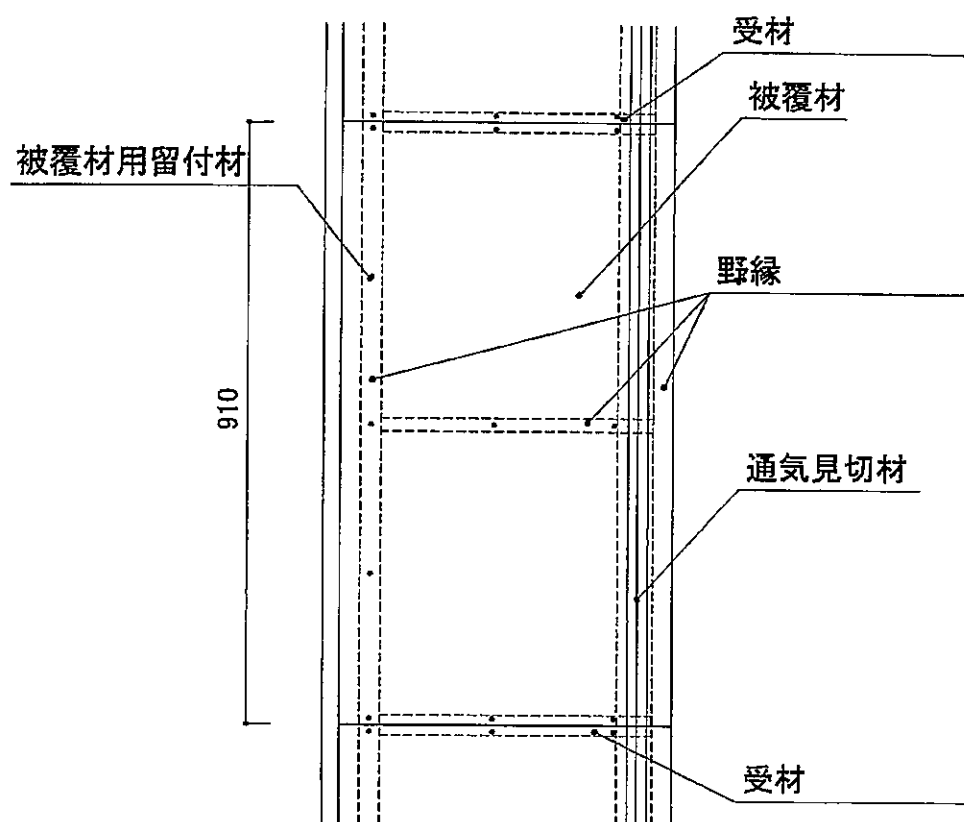
被覆材水平、通気見切材勝ち、
通気見切材壁側施工の場合

※:評価対象外

軒元及び通気見切材の納まり

図5 構造説明図

単位 mm



被覆材が455幅以上の場合の留付例:910幅製品の場合

図6 構造説明図

(単位mm)

<通気見切り材図>

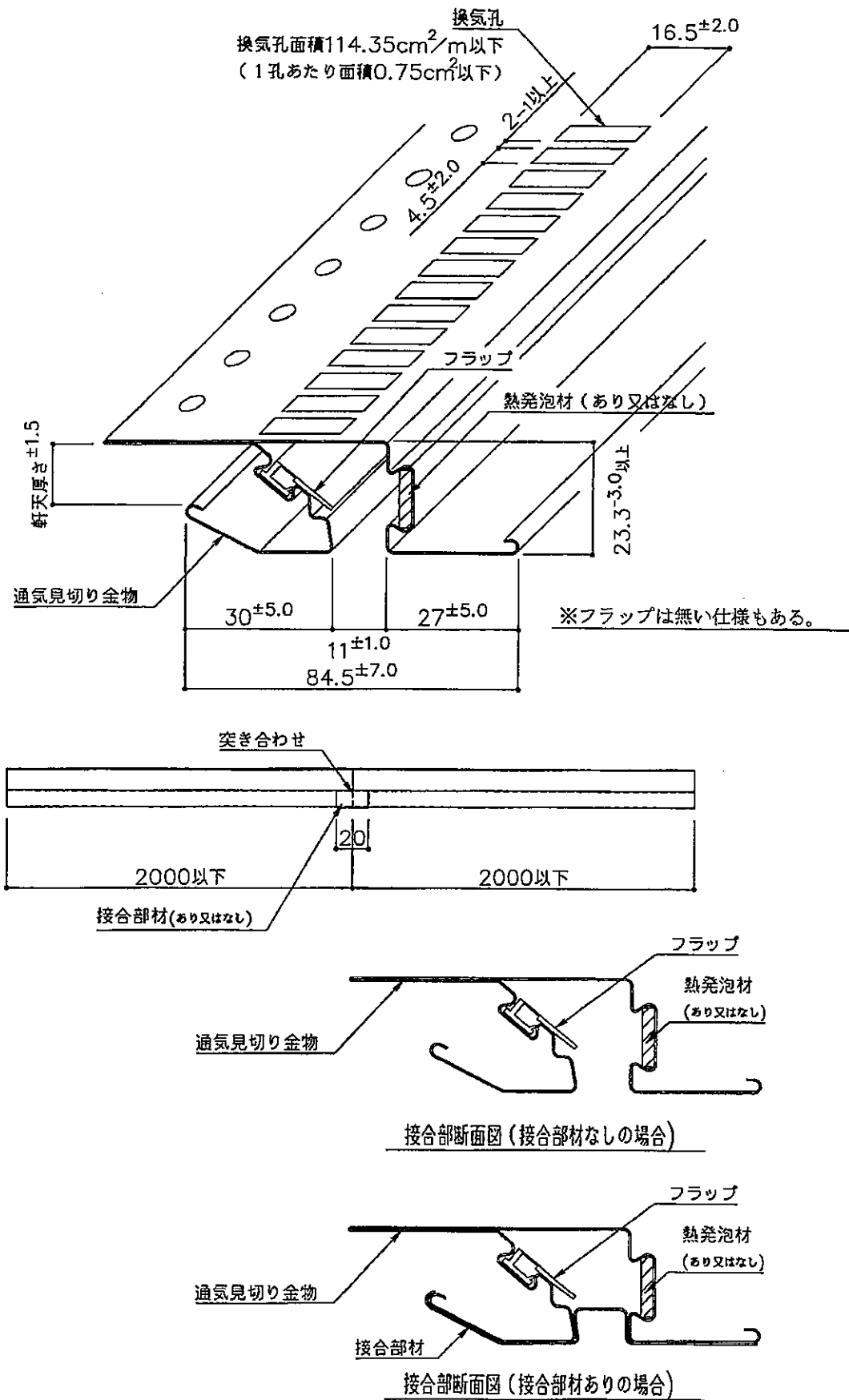
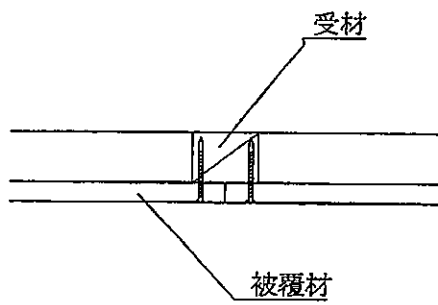
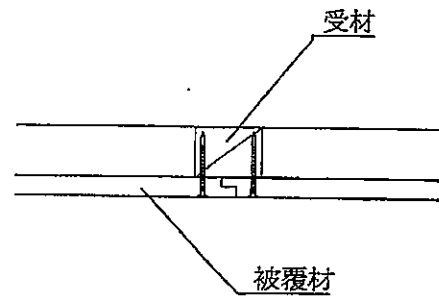


図7 構造説明図

①突付け目地



②本実・合いじゃくり目地



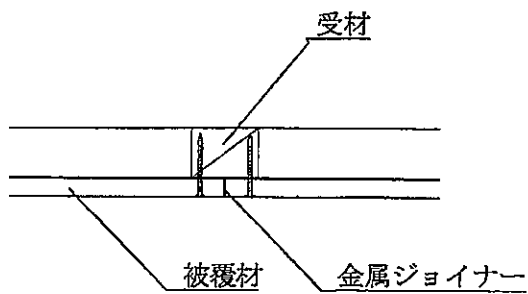
重なり



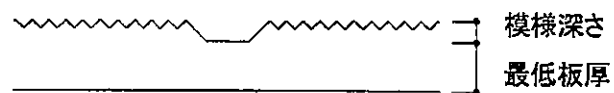
隙間

合いじゃくり形状

③金属ジョイナー目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図8 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図9～図12に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2) 野縁の取付け

1) 軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500mm以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきに取付ける。

2) 軒の出が500mm以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

(3) 通気見切材の取付け

通気見切材は、通気見切材固定用留付材を用いて野縁又は受材に取付ける。

(4) 被覆材の取付け

1) 被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁に取付け、取付方法は並行組又は梯子組とする。

2) 目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3mm以下とし、重ね代は9mm以上とする。

3) 被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

被覆材勾配、野縁梯子組
軒の出が500mm以下の場合

(単位:mm)

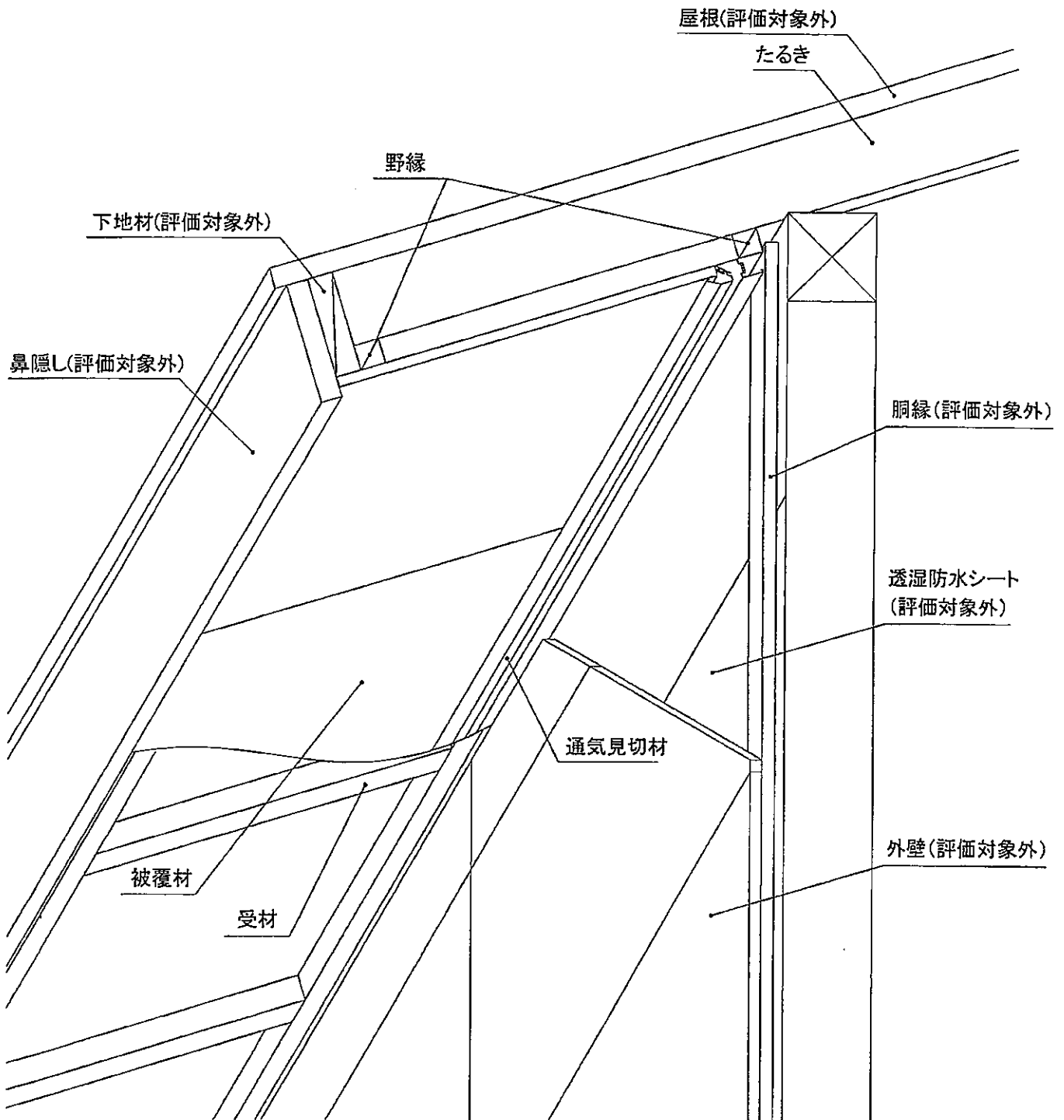


図9 施工図

被覆材勾配、野縁梯子組
軒の出が500～1000mm以下の場合

(単位:mm)

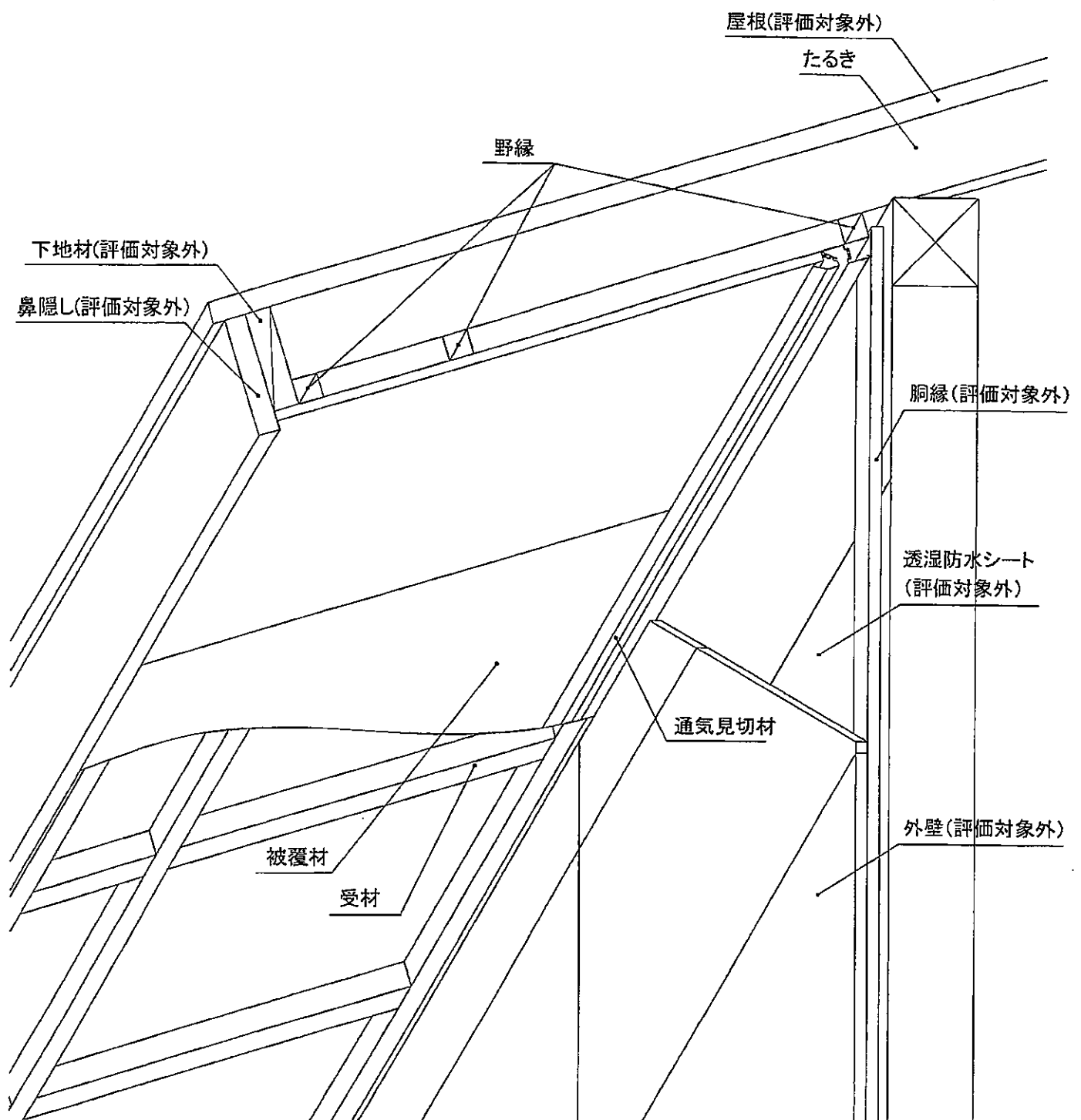


図10 施工図

被覆材水平、野縁梯子組
軒の出が500mm以下の場合

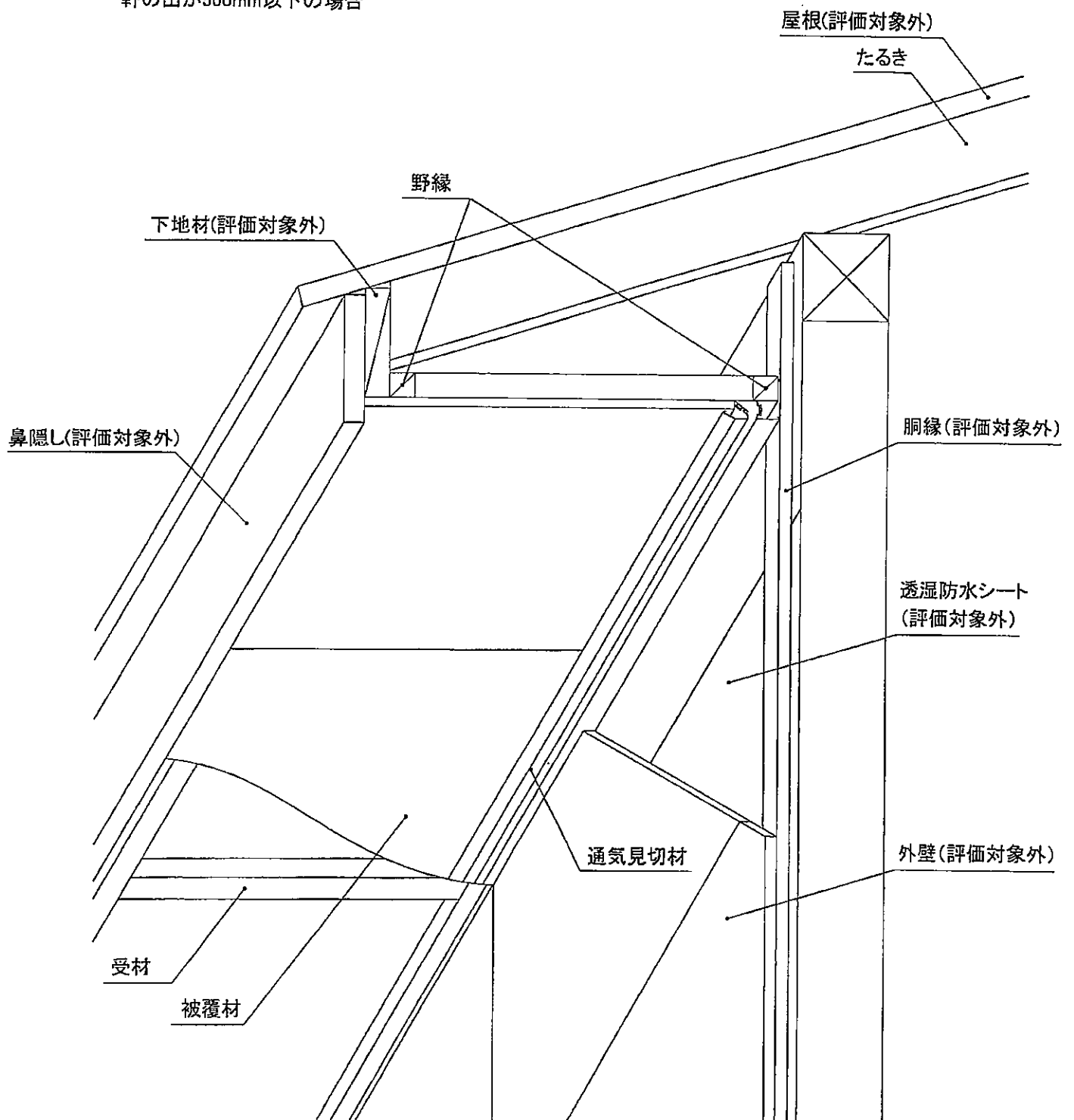


図11 施工図

被覆材水平、野縁梯子組
軒の出が500～1000mm以下の場合

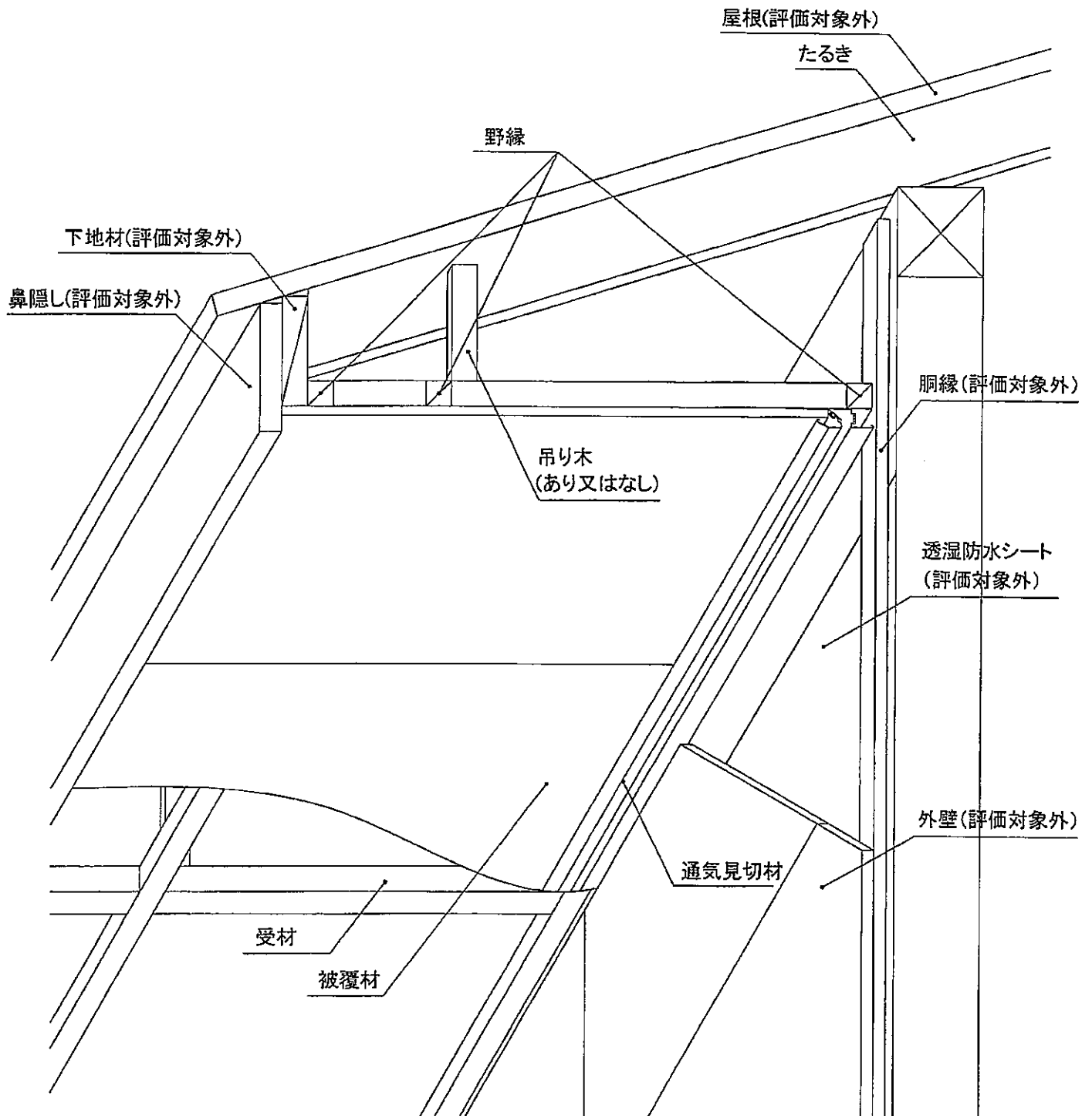


図12 施工図